

長野県長野市緑町 **株式会社 高見澤**



「社会に必要とされ、社員が満足できる会社になりたい」。高い理想を掲げて獅子奮迅の活躍をする高見澤秀茂社長

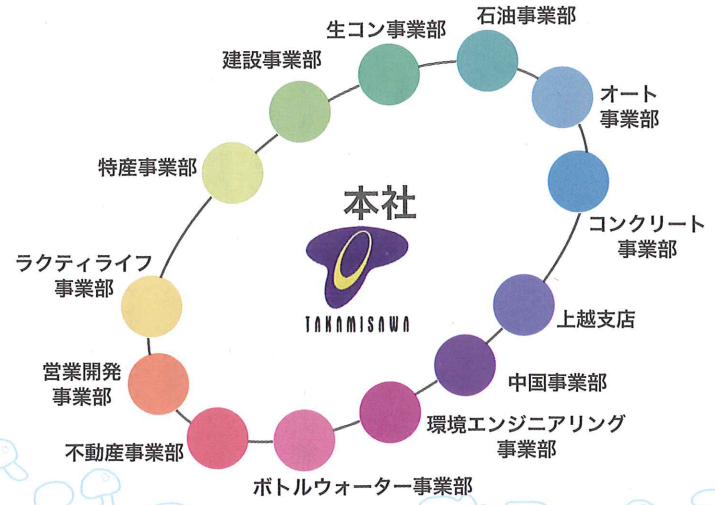
原点は“食”と“農業”の架け橋 地域社会に貢献する多角的総合企業

信州中野での生鮮リンゴの販売をルーツとし、半世紀にわたり、建設や環境など様々な事業において発展成長を続けてきた株式会社高見澤。“食”と“農業”に携わる特産事業部など、現代のライフスタイルに合った多角的な経営が強みです。今回は、高見澤グループ第三世代を牽引する高見澤秀茂社長に、きのこに関わる事業を中心にお話をお聞きしました。

時代に適した事業を展開 地域産業と共に発展し、世界へ

昭和26(1951)年3月に、私の祖父・高見澤茂助が中野市で株式会社高見澤商店を設立したのが始まりです。祖父は10代の頃から商売を始め、いたそうですが、戦後の食糧難の時期に、周辺の農家さんから引き取ったリンゴを全国へ販売するといった流通業を手掛けたことが当社の原点となります。その後、高度経済成長と共に運送・砂利採集・生コンクリート・自動車整備・保険事業と拡大し、昭和46(1971)年には、関連会社をすべて

まとめて株式会社高見澤を設立し、長野市に本社を移転しました。石油、環境、不動産など事業領域は多岐にわたり、中国事業部も軌道に乗っています。



信州らしい美味しさを追求し プレミアムなめ茸を展開

“食”と“農業”に携わる特産事業部は当社のルーツです。旬の果物を扱う直販課、なめ茸の製造を担う志賀

(内コーンコブは1万5000t)。コーンコブの産地は、中国・タイ・インドネシアで、安定した品質と異物混入除去の高精度化を心がけています。微生物という生き物だけに繊細で難しいところもありますが、平成26年度の長野県きのこ品評会では、弊社の培地資材で栽培されたエノキタケ・ブナシメジが、各部門で農林水産大臣賞を受賞するといううれしいニュースもありました。全国有数のきのこ産地という地の利を生かし、全国最大規模のきのこ資材物流拠点としてさらに取扱量を増やしたい。円安による影響もありますが、少しでも価格を抑えられるよう工夫していききたい、と思っています。

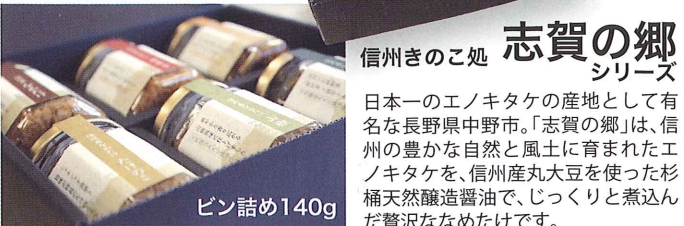
とばかり考えてはだめだと。やはり、現在のような減速経済において成長発展を続けていくのは大変です。平成13(2001)年に私が社長に就任しときには集中・選択で事業を絞り、人員削減しない代わりに待遇を下げ、おかげさまで最近やっと回復してきました。おかげさまで最近やっと回復してきました。おかげさまで最近やっと回復してきました。おかげさまで最近やっと回復してきました。

高品質な培地を安定供給し、 地域のきのこ産業に寄与

培地原料の取扱量は年間3万t

は風味があつて、さまざまな味付けと合うので毎日食べても飽きず、低カロリーで食物繊維も多いと、良いことづくめ。そして、なにより美味しい。長野県が長寿県になったのもキノコのおかげかもしれませんが、人口減少が懸念されていますが、美味しくても上質なものを食べたいという声はこれからも増えていくと考えられますので、今後も食品関連事業の充実をはかりたいと思っています。

ネット注文は 信州 旬彩果房
<http://syunsai-ringo.jp/>



「浮利を追わず」を心がけ
皆が幸せになれる会社を
目指す

初代から続く経営理念「顧客・社員・株主・地域社会に必要とされる会社を目指そう」をこれからも大切にしていきたいです。私自身の座右の銘は「浮利を追わず」ですね。自分のこ

株式会社 高見澤

〒380-0813 長野県長野市緑町1605-14 長野ダイヤモンドビル7F
TEL.026-228-0111
<http://www.kk-takamisawa.co.jp/> **高見澤**

昭和26(1951)年に創業した株式会社高見澤商店を起源とし、昭和46(1971)年に、株式会社高見澤を設立。地域社会に密着した多角的総合企業として、特産物、建設、生コン、石油、自動車、環境、ライフスタイル関連など、様々な事業を展開。特産事業部の志賀フーズ工場では、年間1000tのなめ茸を製造する。平成6(1994)年には山東省烟台市に、現地向け生コンクリート製造・販売を目的とした烟台高見澤混凝土有限公司を設立するなど、グローバルに成長展開を続けている。